

来賓あいさつ

国立公文書館理事 齋 藤 敦



齋藤国立公文書館理事

第41回全国歴史資料保存利用機関連絡協議会全国大会の開催にあたりまして、御挨拶申し上げます。

まず本日の大会の御盛会を心からお慶び申し上げます。本日全国各地から御参集の皆様方は、公文書やその他の記録の収集整理、保存及び利用のための調査研究という、極めて重要な業務に、長く地道に取り組んでこられた方々です。この成果は、今年「公文書館機能ガイドブック」という形で結実しました。これは今後地域の公文書館の活動に取り組む皆様方の、いわば導きの書となることと期待しております。

今回の大会は、秋田県大仙市が来年度に公文書館を新設されるという機会に、県と市町村との共催という形で、全国大会・研修会が開催される運びになったと伺っております。大仙市の御尽力に心から敬意を表しますとともに、感謝申し上げる次第です。

いうまでもなく、自治体の公文書館、アーカイブズは健全な民主主義の根幹を支える知的資源であるばかりでなく、地域社会のアイ

デンティティを確認し、記憶を後世に伝える遺産の装置として極めて重要であります。公文書館行政は単なる箱もの行政ではございません。充実した公文書管理こそが重要であることは、皆様御承知のとおりです。先ほどの講演でもございましたが、現在地方創生の取り組みが全国的に行われているところです。地方創生とは各地域地域に既にある良い物の価値を再発見して、改めて活用していくことこそが鍵であると思います。これは私は地域アーカイブズの力そのものであると考えております。私はあえてここで、「地方創生はアーカイブズから」という合い言葉を皆様方に御提案・御提唱したいと思っております。本大会におきましては、大仙市の事例を始めといたしまして、特に基礎自治体である市町村の公文書館設置を念頭に置き、そのための考え方や取り組みの参考となる内容を御用意されているとのこと。御参加の皆様が本大会で得られた知見、及び議論の成果を持ち帰っていただき、それを他の自治体にもぜひ広めていただき、我が国の公文書館活動がますます発展し、全国に広がっていくことを強く期待いたします。

さて、この機会に最近の私ども、国立公文書館の活動のいくつかを御紹介します。今年は公文書管理法施行5年目を迎えるという、これまでの歴史公文書の保存及び利用の業務全般について、もう一度点検する時期となっております。その中で私どもが常に心しなければならないことは、公文書館は利用していただき、来館していただいて実際に公文書に触れていただくことで初めて始まるということです。公文書館を知って、来て、見ていただくということが出発点だということです。

その意味におきまして、まず第1に、展示会や見学会などの地道な活動は非常に重要と考えております。当館では今年、海外の公文書館との初めての共催企画展といたしまして、ジョン・F・ケネディ大統領図書館・博

物館との共催により、「JFK－その生涯と遺産」展を開催し、42,000人を越える御来場をいただきました。また来年2月から3月にかけて、三重県総合博物館との共催により、「明治の日本と三重～近代日本の幕開けと鹿鳴館時代～」と称する展示を予定しております。来年度も当館所蔵資料の館外展示を実施することとして、現在共催者を公募しているところです。

第2に、利用の拡大という意味では、文書資料のデジタル化公開にも力を入れております。いつでも誰でもどこでも利用できるデジタルアーカイブは、全国のアーカイブズネットワークを広げるという意味でも重要です。またアジア歴史資料センターなどを通じ、海外に情報を発信していくためにも重要であります。国際協力という面では、先月開催されました、国際公文書館会議東アジア地域支部（EASTICA）の総会におきまして、全史料協及び日本アーカイブズ学会から御報告いただきましたことに、この場をお借りして御礼申し上げますとともに、総会におきまして、本期から4年間、EASTICAの議長に私ども国立公文書館館長加藤が就任することとなりましたことを御報告申し上げ、なお一層の御協力をお願いする次第です。

第3に、公文書館活動の広報活動には特に力を入れております。今年私どもは新たな広報誌『国立公文書館ニュース』を刊行するとともに、新たに友の会を発足させることといたしました。現在、会員を募集中ですので、ぜひ御参加いただければと思います。

最後に1点、御報告申し上げます。今年9月の集中豪雨におきましては、全国各地に被害が生じましたが、特に茨城県常総市においては、鬼怒川堤防の決壊により、市庁舎が浸水するという被害を受け、保管されていた多数の公文書が水に浸かるという事態が発生しました。これに対し、茨城県、関係専門機関、それから全史料協の方々や多くのボランティ

アの方々が救援の活動に手を差し伸べておられるところですが、遅ればせながら国立公文書館も文書復原の支援のために、既に資材を提供いたしておるところですし、また専門家を派遣することとなりました。さらに、将来こうした被災公文書の救援を見据えまして、被災公文書の救援チームを館内に立ち上げ、私どもとしてできる限りの支援を行ってまいりたいと考えているところです。今後とも全

史料協を始めとするアーカイブズ関係機関、及び関係者の皆様とともに、公文書館の更なる振興を目指し、連携・協力の輪を広げていきたいと祈念するところです。

大仙市公文書館の無事の御発足をお祈りしますとともに、皆様方の一層の御活躍と全史料協の益々の御発展を祈念し、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。